

第33回 御池高倉の東南の地域

今回は、表題を「御池高倉の東南の地域」としましたが、北は御池通、南は六角通、西は高倉通、東は麩屋町通で囲まれた一画です。第31回の東の地域です。今回は、仁丹の町名看板をかるうじて一枚発見しました。ただし、今回も、他のスポンサーの町名看板を、積極的に取り上げるようにしました。

この界限は、この十年ほどの間に新規開店した店が多いので、インターネットの情報を駆使して紹介することにします。

■ 堺 町 通

■ 和菓子・和久傳

堺町姉小路の十字路の西北側、松寿堂（町名は丸木材木町）のビルの堺町通に面した角にライオンズクラブによる詳細町名看板「堺町通姉小路上る」①を見つけました。

松寿堂は紙製品を扱っています。堺町姉小路の十字路の東北側角に MALDA KYOTO(京都市中京区堺町通御池下丸丸材木町)。ごく最近開店した焼菓子カフェと宿泊施設。

堺町通に面した東側に、室町和久傳（堺町通御池下丸丸材木町）。京料理の老舗として有名ですが、店に入ったところには、紫

野和久傳堺町店「むしやしない」が併設されています。「むしやしない」は、腹の虫を養う程度の軽食のこと。一階に「おもたせ」（持ち帰り店舗）、二階に「茶菓席」。れんこん菓子「西湖」や栗で月を見立てた羊羹「月あかり」。

その南の立派な町家は、「堺町画廊」。築百四十年の町家を、貸し画廊にして、いろいろな催しをおこなっています。

姉小路通に北面して、洋菓子店「ペーパームーン京都」（姉小路通堺町東入木之下町）。クレープが何層にもなっているミルクレープで有名です。

堺町通を姉小路との交差点を下がったところ、東側に、「いづつ家」三条店（堺町通姉小路下丸丸材木町）肉屋がやっている鉄板焼きと焼肉の店。いづつ屋牧場で育った上質な丹波牛を提供。

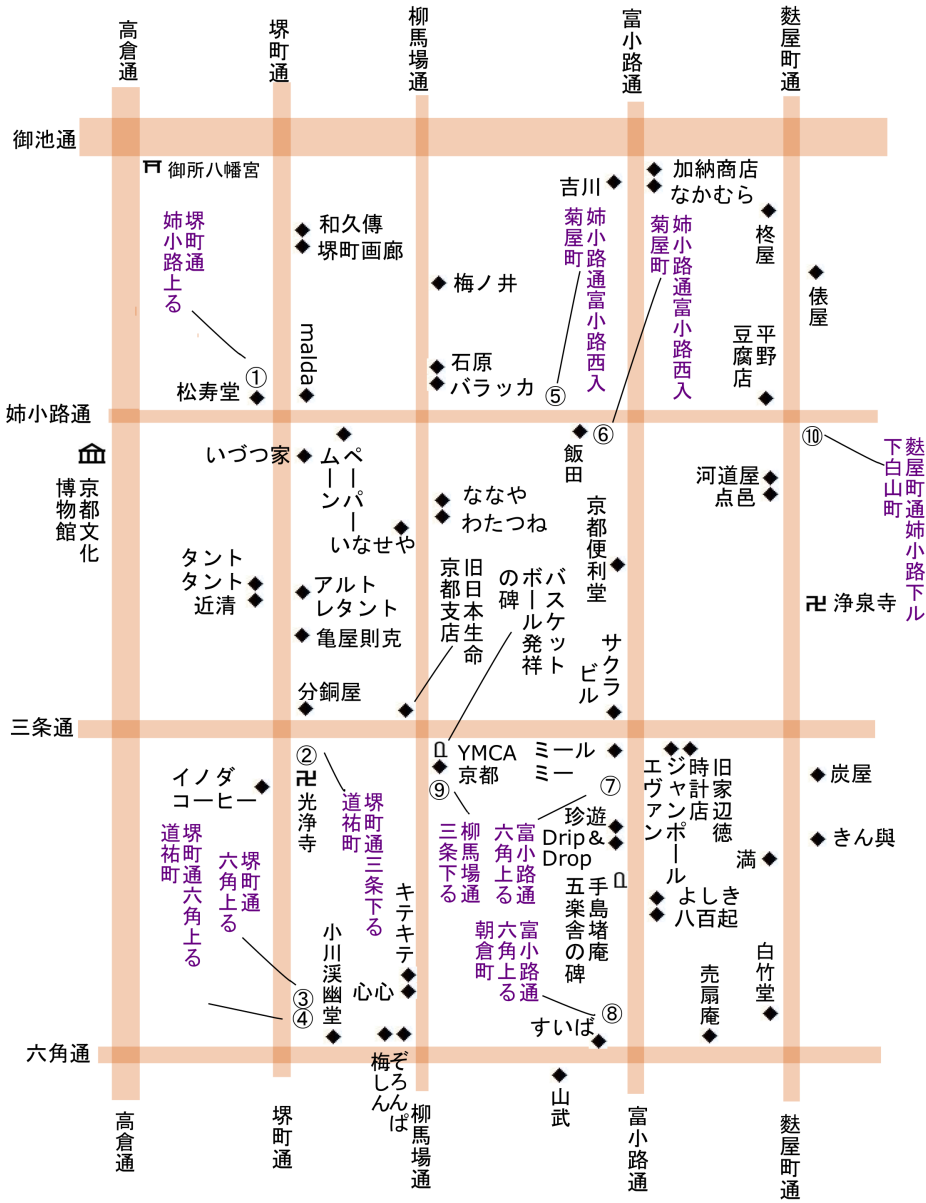
■ イタリア料理・和菓子・京漬物

壁面にキンシ正宗の看板が掲げられている建物は、現在はイタリア国旗が掲げられているように、イタリアンレストラン「アルトレタント」（堺町通三条通上丸丸材木町）となっています。キンシ正宗の江戸時代末期の建物をうまく活かした、洒落たイタリアンレストランです。

なお、キンシ正宗（堀野記念館）が、堺町通二条上丸丸屋町にあり、酒蔵が、堀野記念館として町屋文化の博物館になっています。

アルトレタント（旧キンシ正宗酒造）の並びの南側に、御菓子司「亀屋則克」貝殻に詰めた菓子浜土産で有名。和菓子作りの木型や筆筒が並ぶ小さな帳場の畳の上には、季節の干菓子。

町名看板の所在 (御池高倉の東南の界隈)





堺町通姉小路上る①

「アルトレタント」（旧キンシ正宗酒造）の真向かいに、これもまたイタリア料理店「レストランテタントタント」（堺町通姉小路下ル大阪材木町）。この店にもイタリア国旗が掲げてあります。両者の町名は同じ大阪材木町。両側町の証拠はここにもあります。

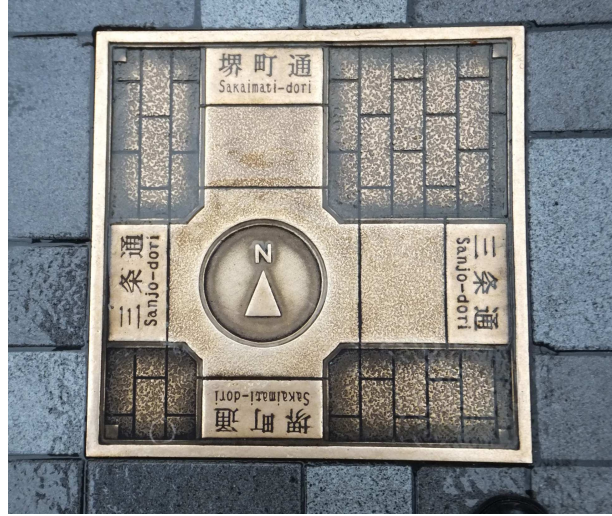
「アルトレタント」（旧キンシ正宗酒造）の真向かいに京漬物の「近清」（堺町通三条上ル大阪材木町）。この町名も、同じ大阪材木町。国産・無添加の漬物販売。創業一七六四年。「近清」は江戸時代半ば西本願寺のお膳場にお漬物を献上。幕末期には新撰組が八木邸から西本願寺に本拠地を構えたので、西本願寺に漬物を献上していた近清は新撰組にもお漬物を献上。名物は、「味噌漬大根」と「千枚漬け」と「瓜奈良漬け」。

三条堺町の交差点の歩道には、面白い道標が埋め込まれています。図柄は凝っていて、堺町通を示す北側の枝と、三条通を示す



アルトレタント（旧キンシ正宗酒造）

三条堺町交差点に埋め込まれた道標



東側の枝が長くなっているのは、東北の角に埋め込まれているためです。

東北側に角には、分銅屋足袋^{ぶんどりや}。創業一八六四年の老舗足袋専門店。

分銅屋足袋



■ コーヒー

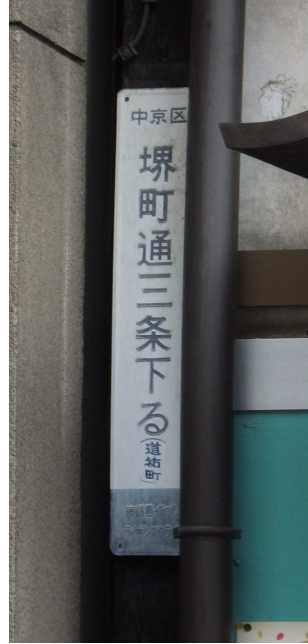
堺町通三条下る東側に、光浄寺という浄土真宗本願寺派のお寺があります。その建物の北隅に、町名看板「堺町通三条下る（道祐町）②」があります。その建物の堺町通に面したところは、どうも車庫になっているようです。南隅の入口の部分の写真を載せておきましょう。

江戸時代の地誌『京町鑑』^{きやうまちかぎ}（一七六二年刊）の縦町「堺町通」の

光浄寺



堺町通三条下る（道祐町）②



項の「三條下ル」には、「道祐町」の項目が立ててあり、「此町東側に光浄寺といふ西門徒有。又その南に上杉民部殿屋敷有。」と記載されています。「西門徒」とは、浄土真宗本願寺派のことを差しています。

光浄寺は、平安徳義会の孤児院が設立されたところです。林俊光「明治期における平安徳義会の児童保護活動」（仏教大学福祉教育開発センター紀要 第11号「二〇一四年三月」87-96）によれば、「平安徳義会創立三周年記念事業として京都に未曾有の孤児院を起し、孤児、棄児、貧児等の不幸児童を收容教養他日有為のものに成さしめん」との目的で、明治二六年六月に、堺町通三条南入ル道祐町光浄寺内に開設したとあります。平安徳義会の事業が今日まで続いていることは、素晴らしいことだと感じます。

光浄寺の南側の路地は、「三条食西彩ろおじ（堺町の道）」。七店舗の複合施設になる予定が、現在は二店舗「おにくのおすし」と「小料理 榎水」。

光浄寺の斜め前には、「イノダコーヒー本店」があります。有名な老舗喫茶店。町家造りの外観ですが、店の中は、重厚感のある照明や椅子などのインテリアや、ギンガムチェックのテーブル席など、ちよつとした異空間。人気のコーヒーは、昔ながらのイノダのコーヒー「アラビアの真珠」。酸味の少し強いヨーロッパ風味。

堺町六角の東北の角に旅館「こうろ」がありますが、その建物が尽きた北端の隔壁のところに、幅広町名看板「堺町通六角上

イノダコーヒー本店



る」③があります。すぐ近くの看板の柱に、町名看板「堺町通六角上る（道祐町）」④が貼ってあります。

六角通を東へ、旅館「こうろ」の東、六角通に面した北側に、表具店「小川溪幽堂」（六角堺町東入堀之上）。外見は普通の民家ですが、軒には特徴ある軒行燈のきあんどんが設えられており、「表具」と表示されています。銅製なので、緑青ろくしょうが噴ふいていて、歴史を感じさせます。

■ 柳馬場通を南へ

今度は、御池柳馬場の交差点から、柳馬場通を南下することになります。

柳馬場通姉小路上る東側に、鰻屋「梅乃井」（柳馬場通姉小路上る柳八幡町）。江戸焼き鰻の味を伝えて九十余年の老舗。

少し、柳馬場通を南へ歩いた、やはり東側に宿屋「石原」。往時、黒沢明監督が定宿にしたので、いわゆる「黒沢ルーム」があり、この部屋にも泊まることができます。

その南隣に、スペイン国旗を掲揚したパエリア&グリル「バラッカ」（柳馬場通姉小路上る東側八幡町）。「BARRACA バラッカ」とは、漆喰塗りで藁ぶき屋根の伝統家で、スペイン料理「パエリア」の故地、バレンシア地方（スペイン中東部、アルプフェラ湖の周り）に建っているそうです。

姉小路通を横切って、柳馬場通をさらに南へ進むと、甘味処「ななや 京都三条店」（柳馬場通三条上る東側油屋町）。超濃厚な

堺町通六角上る(道祐町)④



堺町通六角上る③



抹茶ジェラートを販売。

その南隣は、蕎麦屋「わたつね」(柳馬場通三条上ル東側油屋町綿常ビル)。石臼蕎麦がうり。

蕎麦屋「わたつね」の斜向かいの路地の奥に、「馳走いなせや」(柳馬場通三条上ル西側油屋町)。日本酒と鶏料理。柳馬場通の西側の入口から店の入口までの路地のアプローチは、プレート一枚一枚に京都の町名が入った石畳。

三条通柳馬場の交差点の北西角には、「日本生命保険京都三条ビル」(旧日本生命京都支店)。登録有形文化財。一九一四年竣工。銅板葺きトンガリ屋根にレンガ・石張り二階建。現在は交差点に面した部分のみを残して改築し、リサイクル着物ショップが入店。

その斜向かいの南東角には、「京都YMCA三条本館」。各種セミナーを開催。京都YMCA国際福祉専門学校、YMCA三条保育園などを併設。

京都YMCA三条本館の交差点の歩道に面した角に、「京都バスケットボール発祥の地」の記念碑。一九一五年に京都YMCAで日本初のバスケットボールチームができてから、百年を記念して、二〇一四年に設置したものだ。台座の上のバスケットボールには「100th」と刻まれています。

京都YMCA三条本館の南西側、煉瓦造りの塀に、幅広町名看板「柳馬場通三条下る」⑨が貼ってあります。

六角通に至る直前の西側に、「キテキテ」柳馬場通六角上ル西側榎屋町)京都をテーマにしたTシャツ&雑貨のブランド「キテキテ」(KiteKite)を取り扱う店。「キテキテ」(KiteKite)は、「来

柳馬場通三条下る⑨



て！ 来て！」「着て！ 来て！」「来て！ 着て！」。

その南側の路地を入った奥に伊勢志摩居酒屋「心心」（柳馬場通三条下ル西側樋屋町）。京町家を改装した居酒屋。伊勢志摩の漁港から鮮魚を直送して、提供。

柳馬場通が六角通に突きあつたつた十字路の角、北西側に居酒屋、「和鉄板ぞろんば 柳馬場六角店」（柳馬場三条下ル樋屋町）があります。一般に和食と鉄板焼きは、ちよつと結びつきにくい。それを結びつけたのが売りの居酒屋なので、和鉄板と断つたのでしよう。なお、インターネットでは所在地表示が括弧に示したようになっていますが、実情は、「柳馬場通六角上ル樋屋町」の方がより良いように思います。

続いて、柳馬場六角交差点を西へ（実は、「ぞろんば」の隣、六角通北側に「お惣菜梅しん総本店」（六角通柳馬場西入ル樋屋町）があります。看板には、「ホルモン専門店 串焼きホルモン梅

しん」と大書してあり、おすすめは、「唐揚げ」、「牛すじホルモンコロッケ」。

■ 富小路通を南へ

■ 和食の名店

富小路御池を南下してすぐ西側に、氷商「加納商店」（富小路通御池下る松下町）。そのすぐ南隣に老舗料亭「なかむら」（富小路御池下る松下町）があります。一子相伝の「白味噌雑煮」と「甘鯛の酒焼」が名物。ミシュランガイド京都で、九年連続「三つ星」を獲得。

「なかむら」の向かい、富小路沿いの西側に、料理旅館・天ぷら吉川（富小路通御池下ル松下町）があります。旅館としての創業は、一九五二年。ミシュランガイド京都二〇一九で四つ星旅館。宿泊なしでも、天ぷらのコースを提供。

姉小路通に面して北側、柳馬場と富小路とのほぼ中間点に、「姉小路通富小路西入（菊屋町）」⑤が貼つてあります。スポンサーはライオンズクラブ。

そのそばに「姉小路界限地区建築協定区域」の掲示がありません。景観を保つために、かなり厳しい基準が定められていることがわかります。

「姉小路界限地区建築協定区域」（用途・高さの制限）

下記に掲げる用途、高さ等は建築できません。

- キヤバレー、ナイトクラブ、バー、ダンスホール
その他これらに類するもの
- 個室付浴場業に係る公衆浴場
- マージャン屋、パチンコ店、馬券投票券販売所、
場外車券等に類するもの
- カラオケボックスその他これらに類するもの
- 日用品を販売する店舗
（営業時間が午前7時から午後10時までのものは除く）
- ワンルームマンション
（建築物の所有者の住宅が付随する場合は除く）
- その他協定の目的に反するもの

姉小路通富小路西入（菊屋町）⑤



- 建築物の地上階数は5以下とし、地盤から18 mまで
連絡先：姉小路界隈地区建築協定運営委員会 京都市都市計
画局建築指導部指導課

上記項目の中で、「日用品を販売する店舗（営業時間が午前7時から午後10時までのものは除く）」とあるのは、多分終夜営業のコンビニエンスストアを禁止しているものと推測されます。

今度は、姉小路通に面して南側、富小路通から二軒目の町家に、「姉小路通富小路西入（菊屋町）」⑥が貼ってあります。やっと、スポンサーが仁丹の町名看板が見つかりました。実は、この町家はもともと、茶道具屋でしたが、それを改装して二〇一〇年に開店した和食の名店「飯田（富小路通西入南側福長町）」です。ミシュランガイド京都で、二〇一八・二〇一九年版で二年連続「三つ星」を獲得。

町名看板⑤が、左書きで「中京区」となっているのに対して、町名看板⑥が、右書きで「上京区」となっているのが、設置した時期を反映しています。ちなみに、旧上京区の南部と旧下京区の北部が合併して、中京区となったのは、一九二九年（昭和四年）の京都市の増区の施策によります。

富小路通に戻って、南下。富小路通三条上る西側に、町家風の店舗「京都便利堂」京都三条富小路店があります。側面は墨色で「便利堂」、正面は朱色で「京都便利堂」と書いた軒行燈が目印です。日本美術の名作・名品を扱った美術はがきで有名で、店舗内がギャラリーになっています。

三条通富小路の十字路の西北角に「サクララ (SACRA) ェル」

姉小路通富小路西入（菊屋町）⑥



姉小路通富小路西入（菊屋町）⑥

飯田



（旧不動産貯金銀行京都支店）。銘板には、文化庁による「登録有形文化財」第26-0008号の指定が刻印されています。

サクラビルは、外観だけ残し内部を改築して、テナントビルとして営業しています。テナントは、おしゃれな店が多い印象です。サクラビル3階には、「イドラ」。ワインテージビーズとボタンの店。2階には、「アブコ (ibuko)」ワインテージ品販売。同じく2階には、「ザ・タンタン (Tintin) ショップ京都店」があります。1階には、「ギャラリー人形朋京都」。地下一階には、「バー「雪月花」」。

サクラビルの三条通を挟んだところ、三条富小路の十字路の西南角に、はちみつ専門店金市商店「ミールミー」(miel mie)。一九三〇年創業の老舗。

三条通を東へ少しゆくと、南側に「旧家邊徳時計店」(三条通富小路東入中之町) 文化庁による「登録有形文化財」第26-0008号に登録されています。柱のない三重のアーチが特徴。現在は、洋装店「京都ダマシンカンパニー」がここで営業しています。

その西隣は、「ジャン・ポール・エヴァン 京都店」(三条通富小路東入中之町) 最近開店した、フランスの名店の日本初の路面旗艦店。チョコレートケーキで有名。

三条富小路の十字路から富小路通を下がると、西側の壁面には、朝倉町の掲示板があり、その横に幅広町名看板「富小路通六角上る」⑦が貼ってあります。

さらに富小路を南下した西側に、「珍遊三条店」(富小路通三条下る朝倉町)があります。一乗寺が本店の、担々麵の有名店です。

その隣に、最近老舗旅館をリノベーションした「ピースホステ

さくらビル銘板



サクラビル (SACRA) ビル



ル三条」という宿泊施設（富小路三条下ル朝倉町）がありますが、その地下にコーヒー店「Drip & Drop Coffee Supply」があります。ここでは、コーヒーの豆や抽出方法を選んで自分でコーヒーを淹れることができます。

富小路通六角上る⑦



■ 「手島堵庵五楽舎址」の碑

さらに、二軒南、富小路通六角上る西側にあるマンション（富小路アーバンライフ）の前庭に、「手島堵庵五楽舎址」の碑（中京区富小路通六角上る西側）があります。手島堵庵（一七一八―一七八六）は、石田梅岩門下。師の没後、明和二年（一七六五年）に講舎五楽舎を開設して石門心学の普及に努めました。堵庵は、子供向けにも、「兒女ねむりさまし」を著しています。「修身の要語をやはらげ、覚えやすからんがため、いろはの序をもていやしき詞につづり、聊か善心を興す使とならん事をねがふ。」として、絵をあしらったいろは歌にして、日常の行儀や心掛けを説いた教材です。例えば、「い」は、「いちがわるうは生れはつかぬ。直が元来うまれつき」。

手島堵庵は五楽舎のほかにも、講舎をいくつか開設しましたが、そのうちのひとつ脩正舎については、本シリーズ第1回で、紹介しました。

富小路を隔てて、「手島堵庵五楽舎址」の碑の筋向かいに、手打ち蕎麦「更科よしき」（富小路通三条下ル朝倉町富小路マンション一階）があります。その南隣は、居酒屋「八百起」炭火焼野菜。

富小路通六角上る西側の二軒目の掲示板に、「富小路通六角上る（朝倉町）」⑧が貼ってあります。

六角通を西へ進んだところ、北側に立ち飲み居酒屋「すいば」。もう少し西へ。南側に、山武扇舗（六角通柳馬場東入大黒町）。

六角通のこの近辺には、扇子屋が多いことに気づきます。



「手島堵庵五楽舎址」の碑



富小路通六角上る（朝倉町）⑧

■ 麩屋町通を南へ

■ 老舗旅館

麩屋町御池の交差点の西南の一角を占めて、「**柗屋**」(麩屋町通姉小路上ル中白山町)があります。表玄関は、麩屋町西側。文政元年(一八一八年)創業。二〇〇年続く老舗旅館。町名の「中白山町」は、麩屋町通押小路下るに鎮座する「**白山神社**」に由来しています。

昭和期の文豪達が最良にした宿で、その間の事情は、『おこしやす 京都の老舗旅館「柗家」で仲居六十年』(田口八重著 栄光出版社、二〇〇〇)に詳しい。この本の釣書には、「旅先の宿「柗家」で見せた、お客さま三島由紀夫、川端康成、林芙美子らの忘れ得ぬ素顔と思いの出の数々を綴った、九十一歳の語り残し、思い残しの記録」とあります。ミシュランガイド京都二〇一九で五つ星旅館。

麩屋町通を隔てた、柗屋の向かいには、これも老舗旅館「**俵屋**」があります。ミシュランガイド京都二〇一九で五つ星旅館。

俵屋旅館には、有名な石鹸「サボン・ド・タワラヤ」がありますが、石鹸メーカーの花王と共同開発し、松山油脂(無添加石鹸の製造で有名)で製造されたものです。俵屋旅館のグッズを入手したければ、近くに「ギャラリー遊形」(姉小路通麩屋町東入北側)が開かれています。

江戸時代の地誌『京町鑑』(一七六二年刊)の「麩屋町通」の項には、「此通むかしは麩商売の者多くありし故町筋の號となす。今も三條辺に麩屋あり。」と記載されていますが、いまは麩屋町



柗屋

通に麩屋は一軒ありません。やや強引ですが、同じくタンパク源として重要なので、姉小路通麩屋町の十字路の西北角にある豆腐屋「平野豆腐店」をあげておきましょう。

■ 蕎麦の名店

麩屋町通と姉小路通の十字路の東南角、麩屋町通に面した東側(平野豆腐店の筋向かい)に、古ぼけた町名看板があります。「麩

俵屋



屋町通姉小路下る(下白山町)⑩があります。町名の「下白山町」は、写真を拡大するとかろうじて読み取れます。

この十字路から、南へ下がったところ、麩屋町通西側に、そばの名店^{みまな}晦庵河道屋(麩屋町通三条上ル下白山町)があります。「下白山町」は、麩屋町通の両側町であることが、この店の所在地(西側)と町名看板⑩(東側)から確かめられます。

晦庵河道屋は江戸時代から続く生そばの老舗です。河道屋晦庵



麩屋町通姉小路下る(下白山町)⑩

の名物は、にしんそば、茶そば、芳香炉。芳香炉は先々代(十四代)が考案した鍋です。容器の中央に空気抜きの筒が付属した独特の形をしています。

河道屋晦庵のすぐ南、麩屋町通の西側に路地があり、その奥に「点邑」(麩屋町三条上ル下白山町)。俵屋が経営する天ぷら店。

麩屋町通東側に浄泉寺(麩屋町三条上ル下白山町)の山門。真宗^{しんしゅう}大谷派^{おわたには}。江戸時代の地誌『京町鑑』(一七六二年刊)の縦町「麩屋町通」の項には、「下白山町」があり、「此町東側中程人家の裏に白山社有。東がは南に浄泉寺といふ東門徒有。」との記載があります。

三条麩屋町の東北側の歩道に埋め込まれている道標は、麩屋町通を示す北側の枝と、三条通を示す東側の枝が長くなっています。

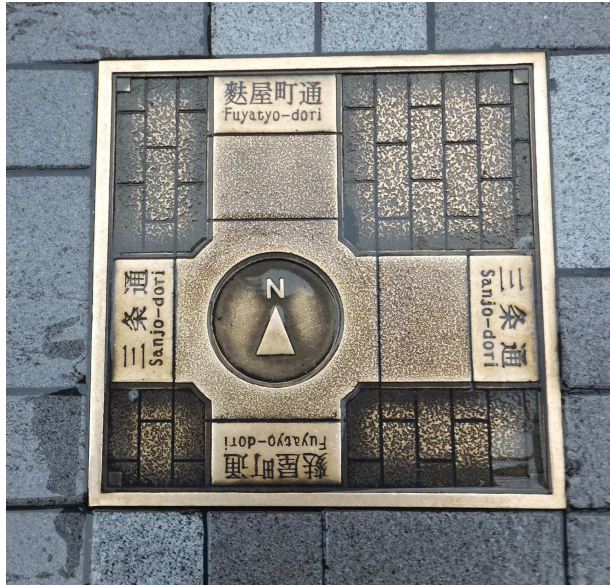
麩屋町通で老舗旅館として忘れてはならないのは、「炭屋」(麩屋町三条下ル白壁町東側)。「玉兔庵」や「一如庵」をはじめ、五

晦庵河道屋



つの部屋に炬が切られているため、いつでもお茶事ができるの
で、「お茶の宿」としても広く知られています。歌人・吉井勇が
炭屋旅館を讃えた和歌「京に来て うれしとおもう 静かなる
利休ごのみの宿のひとよを」の碑が入口にあります。ミシユラン
ガイド京都二〇一九で四つ星旅館。

炭屋の並びを南へ少し下がったところに、悉皆屋しつがいや「染殿きん
與」(麩屋町通三条下ル白壁町)。悉皆屋というのが京都らしい。



三条麩屋町交差点に埋め込まれた道標

無地染・柄染・染替・しみ抜き・洗い張り等和服に関すること全
て(悉皆)。手作りの工芸品も取り扱っています。本シリーズの
第20回の最後のところで、松原通五条のあたりを紹介していま
す。そこで、「きもの悉皆」の暖簾を掲げた高木商店(下京区黒
門通五条上る柿本町)を、写真付きで取り上げてあります。

麩屋町通を挟んで、「染殿きん與」の斜向かいに、すし処「満まん」
(麩屋町通三条下る白壁町)があります。

■ 扇子屋

すでに、扇子屋として、「山武扇舗」（六角通柳馬場東入大黒町）を紹介しました。

麩屋町通を南下して、六角通にいたる直前の西側に、扇子の山岡白竹堂（やまおかびくぢやう）（麩屋町通六角上ル白壁町）。享保三年（一七一八年）に創業。

六角富小路の四つ角を西へいったところに、もう一軒、老舗の扇屋「宮脇賣扇庵」（六角通富小路東入ル大黒町）。文政六年（一八二三年）に創業。

プロフィール

藤田眞作（ふじたしんさく）。一九四四年（昭和十九）北九州市生まれ。学生・大学助手として、十年間、京都で生活。工学博士を取得後、二十五年間、富士写真フイルム（株）足柄研究所にて、記録材料用の有機化合物の開発に従事。この間の仕事は、二〇〇四年に、モノグラフ「Organic Chemistry of Photography」(587ページ)をドイツのSpringer社から出版。数理化的方面の仕事は、一九九一年に、モノグラフ「Symmetry and Combinatorial Enumeration in Chemistry」(368ページ)をドイツのSpringer社から出版。次の十年間は、京都工芸繊維大学教授として、有機合成化学・情報材料化学・化学情報学・数理化の研究教育に従事。そのかたわら菓子をもとめて京都市内を徘徊し、仁丹の町名看板に興味をもつ。二〇〇七年より、湘南情報数理化研究所 (<http://xyntex.com>) を主宰。それまでの数理立体化学に関する仕事の集大成として二〇一三年に、モノグラフ「Combinatorial Enumeration of Graphs, Three-Dimensional Structures, and Chemical Compounds」(576ページ)をセルビアのKragujevac大学出版局 (Mathematical Chemistry Monographsシリーズ第15巻)より出版。および二〇一五年に、モノグラフ「Mathematical Stereochemistry」(437ページ)をドイツのDeGruyter社から出版。



「仁丹の町名看板をよすがに京めぐり」(第33回) 2019/5/31

© 2007, 2008, 2010, 2017, 2019 藤田眞作

<http://xyntex.com>